

ベネチア(世界遺産) 水上バス約 20 分で対岸の「水の都」ベネチアに渡る。

イタリアに着いてから、添乗員に何回も言われたことは、バックは必ず前に!!スリに気をつける!!ということ。話には聞いていたが、日本ではあまり気にしないことでもやはり国の違いを感じた。

ドゥッカーレ宮殿は共和国の総督邸兼政庁として創建されたもので、外観はゴシック調のアーチが連続している。特に有名なのが、ルネッサンス期の画家が描いた「天国(Paradiso)」で、7×22m の世界最大の油絵ともいわれていて、2 階の大評議の間(体育館ほどの広さにも驚く!)にある。この絵ばかりだけではなく、大評議の間には色鮮やかな絵が壁や天井一面に描かれており、圧倒される。

宮殿から牢獄へ渡る**ためいき橋**もあり、ここから囚人は最後のベネチアを見て、溜息をついたのだそうだ。



☆水上バスから



☆ドゥッカーレ宮殿



☆大評議の間



☆ためいき橋から覗く

ベネチアの中心、玄関口となる**サン・マルコ広場**はサン・マルコ寺院、ドゥッカーレ宮殿、コッレール博物館、新政庁、時計塔に囲まれ、世界で最も美しい広場とも言われている。

満潮時には海水が上がってくることもあり、その時に置かれる足場も用意されている。現にサン・マルコ寺院の入り口付近はよく見ると水が地面からにじみ出てきていた。

イタリアでは添乗員が観光案内をすることができない(職を奪わない)ため、現地のスタッフの案内となるが、年配ではあるが、まさにイタリア人!!というおしゃれな男性スタッフで、流暢な日本語の説明に驚いた。

サン・マルコ寺院の外観は宮殿のようで、正面入り口上部には 4 頭のブロンズの馬像が掲げられている。建物中心には羽のあるライオンはベネチアの守護聖人サン・マルコのシンボルで、ベネチア映画祭のデザインにもなっている。

一般では滅多に登れない、寺院のバルコニーから広場を見ることができ、4 頭の馬像のそばまで行かれた。そこはツアーの良いところで、個人だと 1 時間は並ばないといけな入場も待たずに入れるし、バルコニーにも行かれる。

内部は撮影禁止だが、見事なモザイク画で装飾されていた。一番奥の主祭壇の後ろには黄金の祭壇画があり、聖人像が七宝や、黄金、無数にはめ込まれた宝石によって描かれている。



☆サン・マルコ寺院 4 頭の馬像



☆外部のアーチに描かれたマルコ



☆バルコニーから見た広場



☆バルコニーから見る港

後日見た、トム・ハンクス主演の映画、「インフェルノ」では、フィレンツェが舞台ではあるが、この寺院も重要な場面で出てくる。

自分が訪れた異国の街が映画で映し出されると、自分も映像の中にいるような気がして、妙に嬉しくなった。